

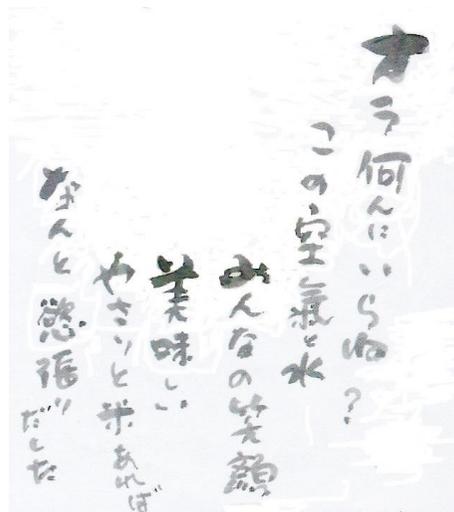
NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！

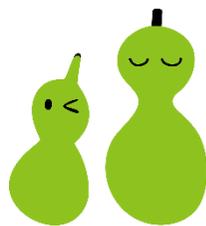


賛助会員 佐藤 祐吉

絵と文



平成 30 年度通常総会が開催されました



一年を振り返って

監事 高野 孝夫

5月26日(土)、えびすやフードセンターで「NPO 法人やすらぎの郷いいの」の今年度通常総会が開催されました。

伊藤理事長から、「NPO 法人は、飯野町で頼られる存在になったものの、ヘルパーさんの不足や、有償ボランティアの人材確保が必要である。」等の挨拶がありました。

議長に高槻秀夫さんを選出し、会員34名中、出席15名、委任状提出12名の参加により、議案5件(29年度事業報告、同決算、定款の一部変更、30年度事業計画、同収支予算)について、それぞれ報告・提案及び質疑応答ののち、全議案が承認されました。

平成29年度決算概要については、別紙の「Ⅰ 決算状況」及び「Ⅱ 活動の概要」で説明しています。

定款の一部変更では、理事会の招集日の5日への短縮と、NPO 促進法の改正に伴い、貸借対照表の開示を法人掲示板に開示することで承認されました。

30年度の事業計画等は、会員・賛助会員の増強と、処遇改善加算ⅢからⅡへの改善準備、及び登録ヘルパーの確保と有償ボランティア(担い手)の拡大を目標しました。

総会后、懇親会を実施しました。

事務局長 齋藤憲芳



昨年5月には、法人の設立から運営まで、すべての面で中心的な役割を果たしてきた朝倉前事務局長の志半ばでの急逝に、今さらながら前事務局長の存在の大きさを痛感するとともに、法人の存続も危ぶまれる事態となりました。

定期総会に向けて決算事務は、役員、職員だけでなく、外部から応援をいただいて、何とかまとめることができたという状況でした。

法人の存続のため、早急に事務局長の選任を、ということで人選が始まりましたが、幸いに、会計事務の専門家であり、NPO 法人制度にも精通し、問う法人の活動についても十分な理解と関心を持っておられる齋藤憲芳さんに快諾していただきました。

新事務局長就任後は、会計事務はもとより、役員会の開催、役所関係の諸手続き、法人運営全般について確実に処理していただいております。

自ら介護職員の研修を受講し、職場の皆さんとの共通理解に努めている齋藤事務局長の人柄から、職場も、和らいだ雰囲気を感じられます。

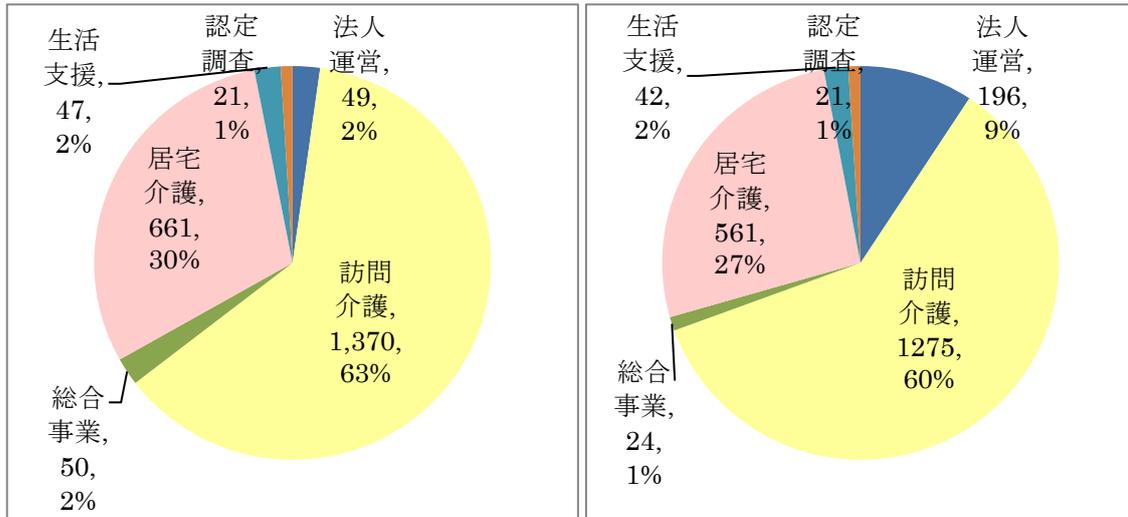
実務にあたる職員の皆さんが安心して現場で職務に専念できる体制が整い、処遇改善も一部実現し、利用される方に信頼されえうサービスが提供されるものと信じています。

新年度の予算は、辛うじて収支のバランスが取られている状態なので、今後、登録ヘルパーの増員、ボランティアの確保などの具体的な取り組みが期待されます。

I 平成 29 年度決算状況

収入 2,198 万円

支出 2,120 万円



平成 29 年度税引前当期財産増 78 万円 (税引後当期財産増 69 万円)

II 平成 29 年度活動の概要

1. 法人運営事業

会員及び賛助会員数に大きな変動はありませんでしたが、会費収入は増加しました。

率化と、新たなボランティアを募集しました。

平成 30 年 2 月 3 日に新春交歓会を開催し、32 名の方の参加を頂きました。

○会員・賛助会員の数 (単位: 名)

	28 年度	29 年度	増減
会 員	38	34	△4
賛助会員	61	61	0

○会費の状況 (単位: 千円)

	28 年度	29 年度	増減
会 員	235	240	5
賛助会員	102	150	48

○委員会活動

広報委員会では、3 回会報を発行しました。

ボランティア委員会では、事務の効

2. 訪問介護事業

法人の最大課題である介護職員の確保が困な状況にあり、2 名の増加があったものの減少が 3 名となりました。利用者数は増加したものの、利用回数は減少し、その結果、収入実績も 2 年連続の減少となりました。

○利用者の状況

(単位: 利用回数: 回、収入: 千円)

	28 年度	29 年度	増減
利用者数	34 名	40 名	6 名
利用回数	6,018	5,311	△707
収入	15,772	13,697	△2,075

3. 介護予防・日常生活支援総合事業

平成29年2月の新制度移行後の実績は、旧制度との合計でみた場合、大幅な減少となりました。新制度単独では、前年とほぼ同水準となりました。

総合事業については、今後の伸びもあまり期待できない可能性があります。

○利用者の状況

(単位：利用回数：回、収入：千円)

	28年度	29年度	増減
利用者数	9名	6名	△3名
利用回数	312	138	△174
収入	883	496	△387

4. 居宅介護支援事業

居宅介護支援は、常勤1名・非常勤1名で、ほぼ限度に近い状況で稼働しました。その結果、利用者数は約10%、収入実績は約9%、前年度より増加しました。

新たな職員の増加については、慎重に検討することとし、新年度についても、現体制で臨む方針です。

○利用者の状況

(単位：作成件数：件、収入：千円)

	28年度	29年度	増減
利用者数	535名	590名	55名
作成件数	535件	590件	55件
収入	6,061	6,611	550

5. 支援活動事業

高齢者世帯、障がい者等に、会員を含む有償ボランティアにより、除草、清掃、墓地清掃、障子貼り等の生活支援を実施しました。

ボランティアの数は、積極的に担い手を探した結果、増加しました。

しかしながら、利用回数、ボランティアの作業時間も、前年度比減少しました。

○利用状況(29年度)

利用者数		ボランティア	
実人数	利用回数	実人数	作業時間
29名	69回	21名	400時間

○利用状況(28年度)

利用者数		ボランティア	
実人数	利用回数	実人数	作業時間
35名	76回	11名	472時間

6. 認定調査事業

2市1町から業務委託を受けた介護認定調査です。

認定調査については、限りある現体制の人材を居宅介護支援事業を中心に配分するようにしていることから、新年度も同水準になる予定です。

○受託市町及び受託件数(29年度)

福島市	川俣町	二本松市	計
36	22	1	59

○受託市町及び受託件数(28年度)

福島市	川俣町	二本松市	計
38	23	6	67



みんなの広場



「人との関わり」

「ためしてガッテン」という番組を観ました。寝たきりにならない為になにが一番大切か。という内容でした。

驚いたことに、運動よりも食事よりも禁煙よりも人との関わりが一番だということです。週に一度でも家族以外の人と関わりをもち、話すことで寝たきりになるリスクがとても減るそうです。

母は今、満九十二歳。五年半前から「やすらぎの郷」さんのお世話になっています。

入浴介助が自宅では難しく、デイサービスやショートステイの方々に助けをいただいで、自分で出来ることは自分でしながら暮らしています。今回、人との関わりが元気で暮らすなによりの方法だと分かり嬉しく納得しました。

人生百年時代を迎え、誰もが長生きできるようになりました。老後や、介護を考える事は明日の自分を考える事だと思っています。

最近希薄になった気がする「人との関わり」を寝たきり予防という位置からもう一度考えてみるのもいい事だと思います。

〈利用者家族、民生委員
高橋 京子〉

職員紹介

左右
齋藤 芳子
佐藤 夕美子



ヘルパーに就いて10ヶ月

以前より、介護職に興味があり知人からの誘いで介護職員初任者研修を受講して資格を取得し、ヘルパーの仕事に就いて10ヶ月になるところです。仕事をする際に利用者さんとできるだけ多く会話をする事、利用者さんの希望に添えるよう心掛けています。

まだまだ経験不足で日々学ぶことばかりですが、先輩方のご指導とアドバイスを頂きながら、これからも仕事を通して皆さんのお役に立てればと思っています。

〈ヘルパー 齋藤 芳子〉

一期一会

介護経験は3年目となり2月より、やすらぎの郷で活動させていただいています。在宅での経験は初めてで、色々不安もありますが、経験豊富な先輩ヘルパーとの情報共有や協力、サポートのおかげで訪問することができています。

訪問先で、利用者さんに「待っていたよ」「気をつけて行きなよ」など、温かい言葉をかけていただき、自分も笑顔になり楽しく訪問することができています。

これからも、色々な経験をし、日々勉強していきたくと思っています。

〈ヘルパー 佐藤 夕美子〉



“自立支援”について思うこと

安倍首相は成長戦略を議論する『未来投資会議』で、介護保険制度について「パラダイムシフトを起こす。介護が要らない状態までの回復を目指す」として自立支援を中心とした制度への転換を宣言しました。「一億総活躍社会」などとともに、今の日本社会を「いつまでも若々しくあること」「元気に活動すること」といった外的な活動性を中心とした生き方を図るよう強調（強制）しています。

『自立支援介護』を「いったん要介護になった人を、もう一度自立状態に引き戻す介護」としました。そして自立支援を要介護度の軽減だけに定め、要介護度を軽減させた事業所に報酬を上乗せし推進しようとしています。そうすると、要介護度の改善の見込みが難しい高齢者が施設に受け入れられにくくなり、在宅介護者の負担が大きくなります。また、望んでいないリハビリなどが課されたり、「改善しなくてはいけない」と強迫観念を与えてしまいます。

年を取るのとともに健康状態が悪化するのには「自然の摂理」。「今できることを、できるだけの間できるままいてもらう」ことや「できることが限られていく中にも、その人らしく暮らしていける環境をつくる」ことに価値があると思います。利用者の意図に反したリハビリや栄養投与が促進され、生活の質の向上がないがしろにされるリスクがあり、虐待と言っても過言ではないと思います。

「内面的にいつまでも成長・成熟し、満たされた人生を生きる」「これが私の人生で果たすべき使命なのだ」そう思える生き方を支える支援が豊かな長寿の秘訣のように思います。

ケアマネジャー

熊田 吉弘



生活支援ボランティア・
ホームヘルパー募集！



NPO やすらぎの郷いの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>